

平成21年 5 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520117

研究課題名（和文） 近世中期文化を視野に入れた初期草双紙の総合的研究

研究課題名（英文） Research of Kusazoshi for Edo period mid-term

研究代表者

黒石 陽子（KUROISHI YOKO）

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：40247268

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学 書誌学

1. 研究計画の概要

本課題は近世中期に出版された初期草双紙（赤本・黒本・青本）を中心に、

- (1) 刊行事情の解明
- (2) 初期草双紙の内容分析による近世中期における歴史事象の伝承の解明
- (3) 初期草双紙の絵の分析による錦絵の画題との関係性

について研究している。

2. 研究の進捗状況

- (1) 平成18年度より平成20年度までの間に関係する草双紙の基礎研究（書誌調査、翻刻、注釈、及び内容分析）については30点を終了した。
- (2) 17年度以前に調査研究を終了している作品については200余点に及んでいるが、これについて上記3点の研究課題に基づく分析を進めている。
- (3) 近世中期に江戸で刊行された初期草双紙（赤本・黒本・青本）と、その後近世後期にかけて江戸で刊行された、黄表紙、合巻、及び上方で刊行された上方絵本も視野に入れながら、初期草双紙の特色について分析を行った。

(1) については初期草双紙が他ジャンルの書籍類や近世芸能から多くの影響を受けていることを検証し、具体的・実証的な研究を進めて成果を上げている。この研究により、初期草双紙の読者であった子どもたちを取り巻いていた近世中期の文化の実態が明確になりつつある。

(2) については2006年度に完成をみた

『草双紙事典』に成果を示した。さらにそれを元にしなが、総合的な観点から初期草双紙の分析を進めつつある。とりわけ近世中期において歴史事象の伝承についてどのような認識がなされていたのか、これらの豊富な資料の分析によって明らかにしつつある。

(3) については初期草双紙の中にある要素がその後どのように草双紙の展開の中で変化していくのか、あるいは継承されていくのか、時間的な推移の中で検証しているものである。また江戸と上方との比較もその特色を明らかにする上でかかせない研究である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。初期草双紙基礎研究の点数が確保されたことと、21年度中にまとめる方向性が明らかになっていることから、おおむね順調と考えている。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 初期草双紙における絵と文の関係についての分析を行う
- (2) 初期草双紙に描かれる絵の構図について近世全体を通じた継承と展開を明確にする。
- (3) (1)(2)を通じて研究計画の3つの課題について明らかにする。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

①黒石陽子『「[四人与市]』について」178頁

～201 頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 28 号」
2007、査読無し。②三好修一郎「黒本・青本
『しほかま』について」151 頁～177 頁、「叢
草双紙の翻刻と研究 28 号」2007、査読無し。
③加藤康子「豆本『絵本頼光山入』について」
255 頁～265 頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 28
号」2007、査読無し。④黒石陽子「『夫は石
橋山／是は狂言山 上股野真田下メ』につい
て」、1 頁～28 頁、「叢 草双紙の翻刻と研究
29 号」。2008、査読無し。⑤有働 裕「黄表
紙『御伽百物語』について」、103 頁～128 頁、
「叢 草双紙の翻刻と研究 29 号」2008、査
読無し。⑥加藤康子「翻刻・豆本『頼光一代
記』について」、165 頁～178 頁、「叢 草双
紙の翻刻と研究 29 号」2008、査読無し。⑦
黒石陽子「『新板 根元石橋山』について」1
頁～27 頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30 号」
2009、査読無し。⑧三好修一郎「黒本・青本
『遊君須磨明石』について」、28 頁～55 頁、
「叢 草双紙の翻刻と研究 30 号」2009、査
読無し。⑨内ヶ崎有里子「合巻『昔話猿蟹合
戦』について」、244 頁～263 頁、「叢 草双
紙の翻刻と研究 30 号」2009、査読無し。⑩
加藤康子「上方絵本『絵本大江山』について」、
264 頁～279 頁、「叢 草双紙の翻刻と研究 30
号」2009、査読無し。

〔学会発表〕(計 1 件)

黒石陽子 初期草双紙の一代記ものにおけ
る人形浄瑠璃享受の形 演劇研究会 2008
年 8 月 31 日 同志社大学

〔図書〕(計 2 件)

内ヶ崎有里子、有働 裕、大橋里沙、鍛冶聖
子、加藤康子、黒石陽子、笹本まり子、杉本
紀子、高橋則子、丹 和浩、橋本智子、檜山
裕子、細谷 仁、三好修一郎、ジョナサン・
ミルズ、山下琢己、湯浅佳子、著 叢の会編
東京堂出版、『草双紙事典』、2006、388 頁。
有働 裕、内ヶ崎有里子、加藤康子、著 叢
の会編 笠間書院 『江戸の子どもの本』
2006、107 頁。